

ずーむあっぷ ながさき人

今回も、「未来のながさきの街づくり」を担う現場でガンバル若手のみなさんをご紹介します。



長崎県 長崎振興局建設部
河川課 河川防災班 百田 小絵さん

観光都市、長崎らしさを生かした街づくりの手伝いができれば嬉しい

学生時代の通学路は長崎市大浦町付近。何もなかった場所に斜行エレベーターができていく様子を見て感動したことが、土木の世界へ進むきっかけに。現在は中島川付近の伐採など、先輩の補助的な役割をしています。「先輩から学ぶことはたくさん。相談事は大きな声で話した方がいいと教えてもらいました。相談相手以外の人との情報共有や、アドバイスがもらえることがありと知り、納得しました」。

県外の大学へ進んだ時に「長崎っていいよね」と同級生から言われて、改めて長崎の魅力を知ったと言います。「長崎は観光都市。交通インフラを整備



中島川伐採の現場。住民と相談しながら作業を進めています



休日はピクニックやドライブへ。ろくろ体験にも行きました

して、長崎がもっと観光しやすい街になる手伝いができれば嬉しい」と語ります。「目標は人のためになる仕事。自然を生かした地元の人が手入れしやすいような自然型の川造りができればと思っています」。



星野建設 株式会社
土木部 佐伯 莉歩さん

いろんな壁にぶつかりながらも日々成長していけることが嬉しい

「人が生活する上での基盤となる、公共物を作ることに魅力を感じ、土木の仕事を選びました」と佐伯さん。現在は測量や写真などの管理、いろんな現場の補助を行っています。「図面通りにいかないことや、経験がない分、悩みや焦りもありました。新人だけど、良く頑張ったねと誉めてもらえた時は嬉しかったですね」と語ります。毎回現場は違うので、その都度新しいことを覚えることが大変でもあり、やりがいでもあるそうです。

「寒い日や暑い日など、体力的に大変なこともありますが、女性の先輩もいるので安心です。女性は



南島原市布津町の現場。「将来は橋を造ってみたいですね」

力がなく重たい道具が運べないなどのデメリットもありますが、女性ならではの細やかな視点を仕事に活かせることもあります」。自分自身で責任が持てる現場監督になることが夢だと明るく語ってくれました。



休日はスイーツを食べに行くなど、楽しんでいます